

京葉臨海コンビナート地域 緑地活用モデル事業報告

都市のみどりを楽しもう

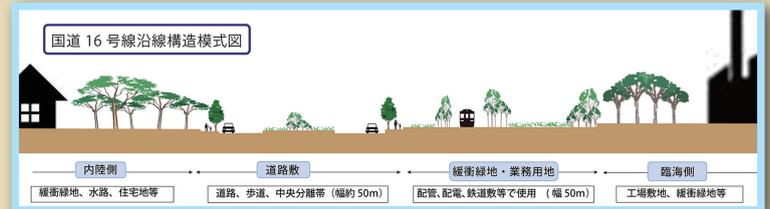
緑地は街の生長点 ～都市に残された広大な緑地を活かしたい～

千葉市から富津市に至る京葉臨海コンビナート地域には、国道16号線周辺に、居住地域に隣接して、約1000haの産業関連緑地があります。

この緑地は埋立地域の環境改善や公害防止のために、企業、行政、住民が約50年の歳月をかけて作り上げたものです。



公害の時代が終わった今、工場地域と居住地域を隔てるこの緑地は、都市の豊かな森として活用していくことが重要です。



産業緑地を活用する取り組みを行っています

- 2013年 企業、行政、NPO、大学等が参加した研究会を発足。（事務局NPO法人千葉自然学校）
- 2014年 「京葉臨海コンビナート地域の緑地のあり方」の取りまとめ。
- 2015年 「京葉臨海コンビナート緑地管理ガイドライン」を作成。
- 2016年・2017年 臨海南部をモデル地区として、緑地の状況と活用方法等の調査。結果を参考に「京葉臨海南部ウォーキング・サイクリングコースガイド」を編集。
- 2018年 「京葉臨海コンビナート緑地活用モデル事業」の実施。

緑地活用モデル事業の目的

産業緑地は、広域的で細長く、常緑でどんな環境にも強い特性がありますが、植生が単調で住民との関わりが薄いといた課題もあります。

緑地を持続的に活用していくためには、時代にあった魅力的な活用方法と多様な担い手が必要です。

このため、地域住民の参加のもと、街の緑地を楽しむ現場研修を通して、地域に合ったモデル的な緑地整備を行うことにしました。



2018 年京葉臨海の森づくり研修事業の概要

- テーマ** 緩衝緑地の健康づくりへの活用
- 実施場所** 富津市民ふれあい公園 森と広場ゾーン
(面積約 50ha の緩衝緑地 延長約 4km の細長い形態)
- 実施期間** 7月から12月の間 月2回ペースで全体で10回

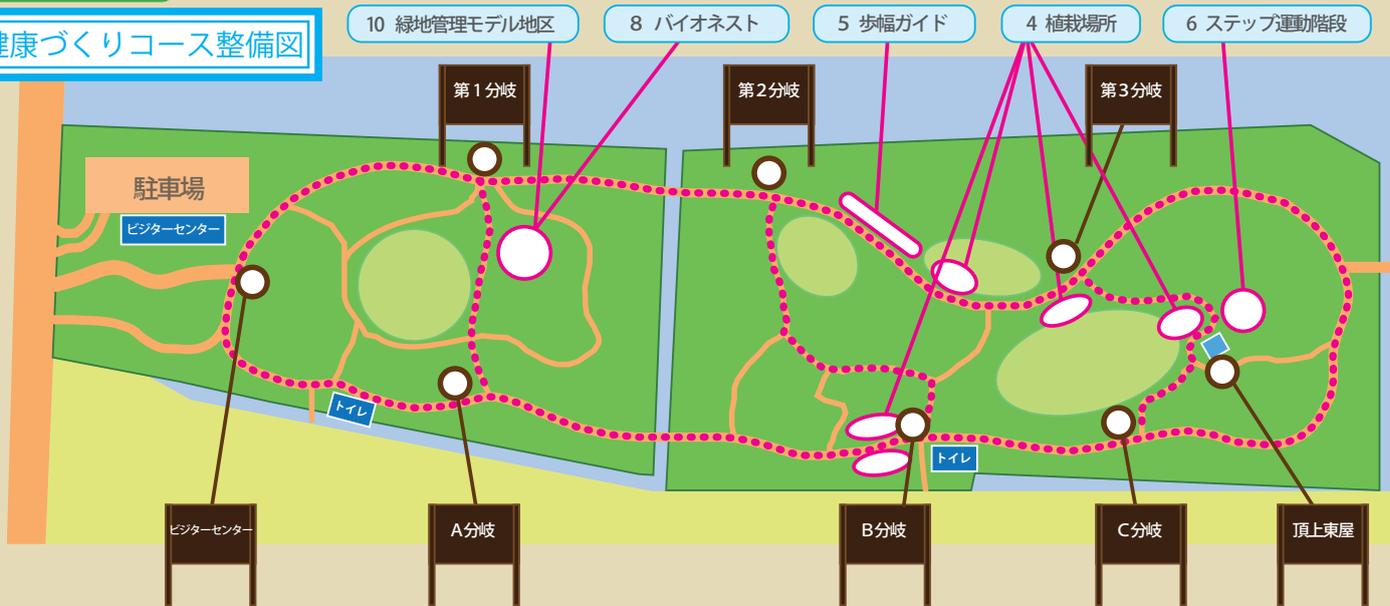


研修 1 健康づくりコースの設計

みんなで森の中を歩いて、この森の特性に合ったコンセプトを考え、外周約 1.5 km のルートを設定し、コースサインを設計しました。

森と広場ゾーン

健康づくりコース整備図



研修 2 コースサインづくり

A3の大きさの杉板に文字をカーボン紙でトレースし、彫刻機等を使って文字を彫り込み、防腐処理をします。白と黄色のペイントで文字の塗り込みを行い、支持棒と接合します。設置場所に穴を掘り、木が動かないように砕石を入れて設置します。



文字をトレースしたスギ板を彫り込みます。板は意外と硬くて彫るのが大変でした。



文字を彫ったところに、ペイントを埋め込んだ後、みんなで品評会をしました。

研修 3 葉っぱの標本づくり

緩衝緑地は、葉っぱの形状が似た木が多いのですが、比較的樹種が限られていて葉っぱの識別と標本づくりに挑戦してみました。

森から葉っぱを採取し、樹木の名前を書いた紙の上に置いて、図鑑等で確認後、標本化します。



講義のあと、森を散策しながら、指示のあった木の葉っぱをさがします。



図鑑等を参考にしますが、識別が難しい葉っぱは、先生に診てもらい、確認します。

研修 4 歩くのが楽しくなる木の植栽

ウォーキングする人の目を楽しませたり、季節を感じたりできるように、コースわきに4カ所の適地を選び、花木や斑入り・カラーリーフの木、果実木などを19種類の苗木を植えてみました。

今はまだ小さいのですが、成長が楽しみです。



最初は木の種類ごとに1本の予定でしたが、皆さん熱心で結局39本植えました。



適当な大きさの穴を掘り、苗を植えて、水と肥料をやります。あとで名札をつけます。

研修 5

歩幅ガイドづくり

ウォーキングの参考に、園路に 65 cm・70 cm・75 cm・80 cm の 4 種類の歩幅ガイドをつくりました。

自分の歩幅を測ってみたい、はじめは楽な歩幅で、だんだんと広げて歩いてみましょう。

身についた歩幅で健康増進ウォーキング!!



園路の上に、チョークで距離を押し、テープでトリミングをして、白線を引きます。



完成後の歩幅ガイドの使い方を看板で標示しました。

研修 6

ステップ運動階段づくり

筋力アップのため、高さ 36 cm と 18 cm の 2 種類の段差の階段をつくってみました。

高い段差では、ストレッチしながら上がってみましょう。低い段差では、踏み台昇降運動をしてみましょう。ぐるっと周回して筋力アップ!!



階段は、丸太を組んで、隙間に炭やたい肥を入れ、環境にやさしくつくります。



完成後、ためにに階段のコースをみんなで歩いてみます。

研修 7

明るい森づくり

森は、樹木の生長に合わせ、間伐などを行い、太陽光が適度に差し込むように管理する必要があります。

森の樹木の高さ、密度、照度を図り、伐採したほうがよい木をみんなで考えました。



ロープで 100㎡ を区切り、その範囲で、どのように密度管理をするか考えます。



細い樹木で伐採訓練もやってみました。伐採の難しさがよくわかりました。

研修 8

バイオネストづくり

鳥が巣をつくるように、伐採した木や枯れた木の枝を組み合わせて枠をつくり、中に落ち葉などを入れます。

森がきれいになり、落ち葉などはやがて堆肥化し、カブトムシなどのすみかにもなります。



適当な木を組み合わせて、枠をつくります。グループごとに特徴があって面白い。



枠の中に、周辺の落ち葉や枯れ枝を中に入れます。そのあとよく踏み鳴らします。

実証実験 9

緑地の貸出

市民のニーズに合わせて緩衝緑地等の活用を図るには、十分な検討や検証が必要です。

緑地貸出の課題等を検証するため、行政等の協力を得て、緑地の一区画を借り受け、実証実験として防災キャンプとホームパーティをやってみました。

防災キャンプ

災害を想定した実践的な防災訓練を楽しく行うものです。防災グッズを持って公園に集まり、みんなで協力し、一泊のキャンプ（避難）体験をしました。

ホームパーティー

周囲が緑に囲まれた閉鎖的な場所を賃借して実施しました。今回の活動全体の反省会として、講師と研修参加者等のひと時の交流の場となりました。



2リットルの水で1日を過ごします。ブルーシートのテントも作ってみました。



12月の夜の寒さと暗さは、実際に体験しないとわかりませんでした。



水道などのない場所でしたが、比較的簡単に、かつ楽しく過ごすことができました。



実証実験に当たっては、適切な表示とともに、火を使う際の準備が重要です。

研修後の対応

事業の反省

事業の広報・周知

初めての試みであり、実績がないため、参加者募集や地元への告知等が十分ではなかった。今後力を注ぐ必要がある。

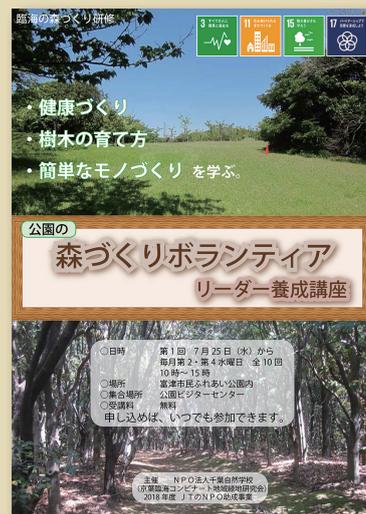
事業の運営

屋外での作業も多く、猛暑や台風など天候の影響を大きく受けた。今後はイベントも全天候型で行えるよう配慮する必要がある。

一部作業が過重となった。ボランティア活動としては、屋外作業は午前・午後各1時間を目安にプログラムを組む必要がある。

事業効果

当初のねらいであった、モデル的整備は、ほぼ予定どおり実施できたが、ネットワークづくりは十分ではなく今後の課題である。

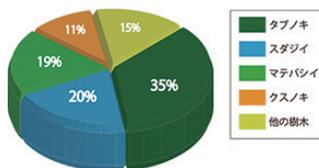


2018年度参加者募集チラシ

実証実験 10 緩衝緑地管理モデル地区の設置

富津市民ふれあい公園内に、緩衝緑地の管理のモデルとなる区域を造ってみました。

緩衝緑地の樹木は、風雨や公害に強い、マテバシイ、スダジイ、タブノキなどの常緑樹を多く植えています。また、緑地の多くが整備後、30年以上経過しており、鬱蒼とした暗い森になりがちです。



京葉臨海コンビナート地域の樹種

このため、森の成長の状況に合わせて、樹木の密度管理や樹種の選択をして行く必要があります。この地区では、今後さらに改善を図り、緩衝緑地の樹木管理の良い例をつくりたいと考えています。



実証実験 11 緑地活用マニュアル（前編）の作成

2018年の研修内容について、他の場所でも応用しやすいように、活用マニュアルを作成してみました。

本研修では、ホームセンターなど身近なところで手に入る手ごろな材料、初めての方でもある程度の結果が得られる内容、余り体力的な負担にならない作業工程などに配慮しました。

本マニュアルは、NPO 法人千葉自然学校のホームページ上に掲載しており、下記から、自由に入手可能です。

URL : <https://www.chiba-ns.net/oshirase?id=917347>

今後の展開

現在 2019 年度の実証実験に向けた企画立案や調整を行っています。

テーマは、緑地での多世代交流（子どもたちも高齢者の皆さんも公園デビュー）です。

都市の緑地の魅力である広い空間とみどりを活かして、みんなで楽しい時を過ごすための手法や技術の研修を行います。6月には、研修生を募集予定です。

編集後記

初めての試みを楽しく実施できました。講師の皆様、延べ 200 人を超える参加者、行政等の関係者の皆様に感謝いたします。



講師紹介

- 柳井重人 千葉大学園芸学部准教授
研修全体の監修、緑地管理・計画の基礎講義
- 伊藤幹雄 ちばデザインネットワーク代表
サイン計画、健康増進施設の講義・実習
- 広永勇三 臨海植生・緑地研究者
臨海部樹木の植栽・手入れの講義・実習
- 伊藤道男 ちば里山センター副理事長
せき悪地の造林、緩衝緑地の管理実習
(2018年 敬称省略)

2019年3月

編集 / 発行 京葉臨海コンビナート地域緑地研究会
(事務局 NPO 法人千葉自然学校)

協力 公益財団法人 富津市施設利用振興公社

問合せ先

メール info@chiba-ns.net

電話 043-227-7103